

研修・会議等報告書

平成28年12月20日

テーマ	第2回プラチナ構想スクール@戸田 「老い」を理解し支え合いで地域力を高める		
日時	平成28年11月11日(金)	場所	文化会館3階 会議室304
主催者	戸田市	費用	なし
講師	東京大学高齢社会総合研究機構 特任教授 秋山 弘子 氏	出席者	伊藤 剛志

内 容	
スケジュール(プログラム等)	
1、	開会
2、	副市長挨拶
3、	講演:「長寿社会に生きる」
4、	閉会
概要	
<ul style="list-style-type: none">・現在、全世界で高齢化が問題となっているが、中でも日本は割合が高い。このままでは1人の高齢者を1人が支える時代が来てしまう。それを防ぐためにも、社会全体の支え合い構造の見直しが必要であり、高齢者が高齢者を支える環境づくりが必要となる。・10年前の高齢者と歩行速度を比較すると、男女共に10歳若返っている(今の75歳は、昔の65歳)。個人が長寿になることにより、65歳以降の自立期間は平均20年、要介護期間は比較的短い。65歳以上における諸活動への参加関心度をみると、働くこと(雇用、ボランティア、サポートなど)が上位に位置している。・定年後は余生という考えから、定年後をセカンドライフととらえ、働くことにより自立期間が延長され、医療費も削減できるようになる。そのためには長寿社会のまちづくりが大切で、多様な住居、状況に応じた交通手段、医療、介護、情報ネットワークが必要とされる。その中に高齢者が地域の支え手となるよう環境を作る事が重要になる。・実際に千葉県柏市の団地で社会実験が行われている。高齢化率の高い団地の周りに、クリニックや看護ステーション、老人ホームだけではなく、商店街や、保育園、小学校を配置し、更に働く場となる野菜工場やブルーベリー畑、コミュニティー食堂、コミュニティーセンターを配置することにより、高齢者が働けるように環境を整備する。・高齢者の就労場として、市民農園、屋上農園、食堂、野菜工場、リサイクル工場、学童保育等々がある。自宅の近所に働くところがあることが大切である。そこで企業と連携し、働きたい人とのマッチングを行うのが事業統括組織となる。・生涯現役社会(エイジフリー社会)が実現できれば、個人的には健康・生きがい・つながり・居場所・収入、社会的には生産者・消費者・納税者・地域力・孤立防止につながり、社会の支え合いのバランスが保たれるようになる。実際、高齢者就業率が高いと老人医療費が抑えられるデータがある。・地域でのフレイル(虚弱)予防が行われている。機能低下が顕在化する前に視点をおき、市民のための、市民によるフレイルチェックを行っている。元気高齢者がフレイル予防サポーターになり、住民主体で楽しい場を作り、気づき・自分事化へ持っていく。	

所感

・実際、自分の周りにも65歳以上でとても元気な方がおられる。その中にはまだまだ働けるのにと感じている方も多いと思われる。現在はまだ一部地域での行いであるが、これが全国的に広まれば、超高齢化社会問題の解決策の1つになるだろうと感じた。自分も65歳で退職したあとは、元気な身体であれば是非働きたいと思う。

添付書類